

# 4 古墳時代

古墳は三世紀から七世紀の終わりごろまで造られました。この間が古墳時代です。八代での古墳に関するもつとも古い記録は『撰播古墳所在表』で、それには「古冢一 八代村」と簡単にでてきます。しかしこれだけでは古墳がどこにあったのかわかりません。

八代は古墳が少ないところです。これは早くから開発が進んでいたのと、姫路城築城のとき、こわされて石垣に使われたからではないでしょうか。

## 芝崎山一号墳

昭和二十六年二月十一日、

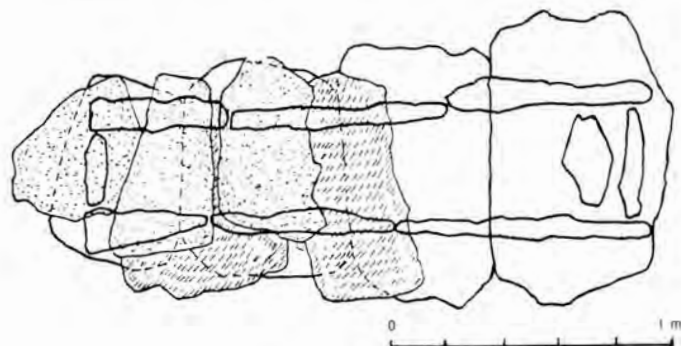
岡村一輝君(当時広嶺中二年

生)が友だちと水品(すいしん)とりに行ったところ、岩の下(くわ)の空洞(くわうどう)の中から鉄瓶(てつびん)のフタや刀(やいば)のようなものを取り出しました。翌(す)十二日、学校にもつてきて増田、矢内(やうち)両教諭(りやうきやうご)に見せたところ古墳(こふん)の副葬品(ふそざうひん)なので、午後(ごご)現地(げんち)調査(ていさ)をし、箱式棺(はこしきかん)であることをつきとめました。

この古墳(こふん)は行者堂(ぎやうじやうだう)の西(にし)の尾根(おしね)、今は八代(やち)緑ヶ丘(りよくがきゅう)町(まち)六番(ろくばん)、地籍(ちせき)でいえば八代(やち)字(じ)芝崎(しばさき)一〇番(じゅうばん)地(ち)の一五(いちご)と伊伝(いでん)居(い)字(じ)金山(かみやま)八〇番(はちじゅうばん)地(ち)の境(さかい)にあります。



芝崎山一号古墳 増田重信氏 提供



実測図 右端の菱形の石は石枕

## 発掘調査

当時教育界には自由の気がみなぎり、ことに新制中学はコミュニティセンターとして期待されていました。地域文化向上のためなら、また考古学ということなら、ということだったのでしよう、調査の話はトントン拍子にすすみました。

調査は二月十五、十六の両日、兵庫県教育委員会社会教育課文化係長 島田 清、大阪市立大学歴史学教室 直木・藤原、大阪市立医大解剖学教室 寺門 各氏の立会指導のもとに、広嶺中郷土研究クラブ員が作業にあたりました。戦後、姫路市内における発掘調査の最初のものでした。

## 古墳の構造

尾根に築かれた円墳だったようです。盛り土は流れてしまっただけでも古墳だと気づきませんでした。埋葬部は図のように石を組んだ箱式棺です。図を説明すると、割り石を縦に並べて枠をつくり、その上にフタ石を四枚、その上に継ぎ目をおおうように三

枚、その上に二枚をのせ、三重にしています。図が複雑であるのはそのためです。もとは全体三重だったのでしようが、いつのころか右半分がなくなっています。

棺の内側は、ところどころに朱がついています。底は粘土。菱形の割り石の石枕もありません。

## 副葬品

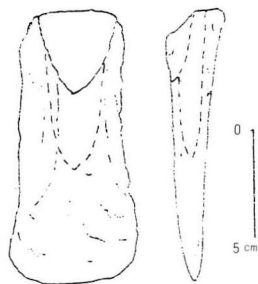
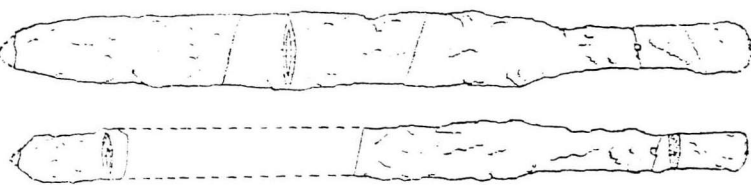
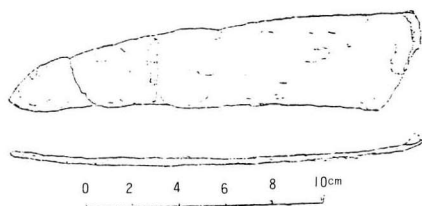
鏡 径七・五センチ、厚さ一ミリ、青銅製、国産品。全面に錆があるので文様がはっきりしないが珠文が多数あるようで、中ほどに櫛歯文をめぐらしています。



芝崎山一号墳副葬の鏡

## 芝崎山一号墳副葬品

図の左は鎌 下2本は剣  
中央は刀子(とうす)の破片 右は斧



鉄剣二本 一本は長さ二七センチ、幅二・五センチ、

他は全長は不明だが幅一・七センチ。

刀子一本 先だけ。幅一・七センチ。

鉄斧 長さ一一センチ。柄をさしこむ部分は袋

状。

鎌 長さ一七センチ。断面図のように内縁、外縁

ともに薄くなる特異なもの。

以上の副葬品は第一発見者によってとりだ

されたもので、発掘調査では骨片以外はな

にも見いだされませんでした。中ほどから

半分は荒らされていませんでした。これに

よつて下半身には副葬品はな一つ置かれ

ていなかったということになります。

頭蓋骨片 石枕のそばに少量残っています

た。

荒らされた 一号墳の北西二〇センチ、同じ

芝崎山二号墳 尾根上にあります。一号墳

の調査後盗掘され、六〇×七〇×三〇センチを

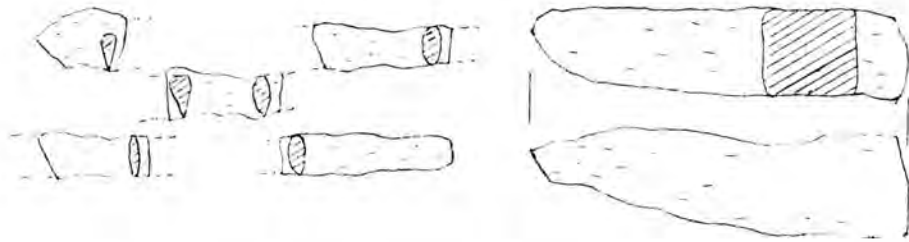
最大とする数個の石が散乱、頭蓋骨片二つ

と下図のような副葬品（鉄剣、刀子、たがね）

がありました。



▲芝崎山二号墳の破壊状況  
大きな石が丸太でくつがえされている。  
人物の位置が一号墳。



芝崎山二号墳出土遺物 左は剣や刀子の破片 右はタガネ

こわれていた 東光寺山<sup>共、いゑ</sup>霊苑の山頂付近で  
**東光寺山古墳** 昭和二十六年発見。芝崎山  
 一号墳と同じ箱式棺でしたが半ばこわれ、  
 副葬品は何一つみつきりませんでした。後  
 世、この山に墓がつくられるようになった  
 ときこわされたのでしよう。

◀八代山古墳群の発掘(昭四五、一〇)  
 調査地域の全景  
 むこうの山上に行者堂がある。



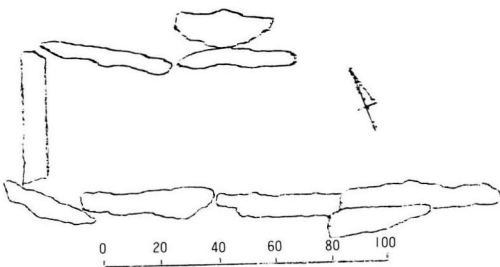
**八代山古墳群** 調査は昭和四十五年から翌  
**の発掘調査** 年にかけて兵庫県教育委員

会が行いました。ミノ峠の西の尾根にあつた四基の古墳です。次のページの遺物がそれまでに発見され、古墳のあることが分かっていたこと、土地買収をしていた業者に地主からも、古墳があり調査の必要を伝えていたので、業者もすすんでその筋<sup>すじ</sup>へ届けたのでしよう、それで開発にさきだち調査が行われたのです。七号墳は調査中に荒らされたので、くわしいことが分からなくなっていました。他は木の棺を埋めただけの木棺直葬<sup>もつかんじきそう</sup>、しかもどの古墳も副葬品は少なく、当時は珍しい古墳だといっていました。

**八代山古墳群** 昭和四十五年ごろは、遺跡  
**の見学会** の保存という考えはまだ薄

かったので、マスコミもそれをよくとりあげていました。民間でも心ある人は、それぞれの方法で文化財の愛護を訴えています。次にその一つ二つを紹介しましょう。

ミノ峠  
 八代緑ヶ丘町から梅ヶ谷町へ越す峠



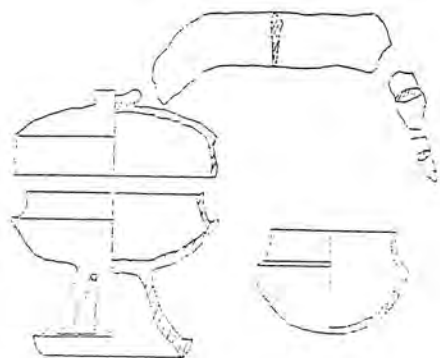
東光寺山古墳箱式棺  
 箱も半分こわれ、フタ石も全部ない  
 (増田重信氏提供)

市民ぐるみで文化財への認識を深めよう  
 ー姫路市内の若者たちが「姫路市の文化財を守る市民団体」を結成、十日、いま発掘中の八代山古墳群の見学会を行い、同団体の呼びかけで中学生、高校生からお年寄りまで約五十人が千五百年前の歴史を勉強、発掘を見守った。

一、『毎日新聞』昭和四五、一〇、一一より  
 「姫路の文化財守る団体」  
 学生たちが結成  
 さっそく古墳群を見学



八代山古墳群の副葬品  
 坏 首飾りなど (市教委提供)



八代山古墳群発掘前、加藤君の採集品  
 (姫路古代誌No.3より)

左 高坏 形を見るとかなり古い  
 上 鎌、鉄の柄の部分が折れている  
 下 小型埴 (つぼ)

この団体は同市下手野、会社員中村信義さん(二〇)らサラリーマン、大学生、高校生約十人のグループ、現在各地で行われている発掘の多くが、学術上の調査というよりむしろ、宅地造成や鉄道建設など開発に追われ、調査のあとにはすべて破壊のうき目にあっている点に注目「開発が文化財行政に優先しているうちは、歴史の遺産も次々に消えてゆくほかない。文化財行政を本来の道にもどすためには、市民のひとりひとりが歴史遺産の重要さに目ざめ、行政を監視



八代山古墳群の発掘

してゆかねばならない」と文化財意識を高める市民運動に乗りだした。

この日、見学会の対象に選んだ八代山古墳群は五世紀のものとして推定され、宅地造成が進み、姫路市教委は現状保存をあきらめ記録保存に決定、破壊されることになった。見学会には市内の考古学グループの高校生や一般市民、お年寄りも加わり中村さんらが刷った案内書を片手に、現地の技師から古墳の成立年代、出土品などについて説明を聞いたが、消える文化財を惜しむ声も強かった。

また前日、盗掘されていることが発見された六号墳では「文化財に対する市民の意識がまだまだ低いことを物語る悲しい結果だ」「市民の意識が低いのは、神話教育に熱を入れても、真の考古学教育をおろそかにしてきた行政の責任ではないのか」など真剣に話し合う市民もあった。

# 古墳また盗掘

姫路市八代新在家

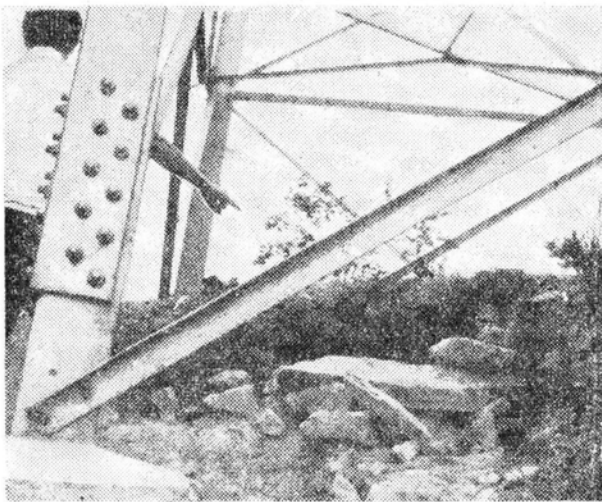
姫路市八代新在家にある古墳群のうち五、六世紀のものとして推定される六号墳が荒らされ、盗掘されているのを九日、同古墳群の発掘調査をしている県教委大村敏道技師らが発見、市教委へ届け

た。この六号墳は直径十二メートル、高さ約二メートルの円墳で、八代宮山の頂上部分。昨年七月、関西電力が建設した送電線鉄塔の真下に当たり、西側石室の側壁が一辺四方形にとられ、内部も荒らされていた。

発見した大村技師らの話によると、同古墳群には円墳七基があり、先月七日から県市合同で三号墳の発掘調査を進めているが、各古墳を見回っているうち発見したもの。「石の残し方、荒らし方

は専門家ではない。内部もかなり荒らし、土もどこどころ掘っているが、埋葬品が盗まれたのかどうか、はっきりわからない」と言っている。

市教委は同円墳の一部に高圧線鉄柱も一部かかっているため、関電側には盛土することで話し合いをつけたが、昨年にも古墳群で盗掘が続き、貴重な埋葬品も盗まれていたので「文化財をこわすのは簡単だが、復原はむずかしい。市民みんなで大切にしましょう」と呼びかけ、古墳監視も強化する。



盗掘され側壁を荒らされた八代六号古墳



発掘調査を 『毎日新聞』 昭和四六、二、  
八ミリに 二〇より

遺跡の保護訴え

八代山古墳群の破壊に憤

発掘調査に立会い

為平さんら有志 半年がかりで完成

新在家の為平十四年さん（四五）、小型映画友の会会長をしているが、昨年七月自宅の裏の八代山古墳群が、宅地業者の手で完全に破壊されることを聞き、同年八月から県の調査団の発掘調査に立会い、八ミリを回しつづけた。

ヘラを使って少しずつ掘る発掘作業を、八ミリをかまえて撮影したが、かんかん照りの夏の日ざしの中で気が遠くなるほどの時間がかかった。そのうえ直刀や土器類がいつ発掘されるかわからないので、気をゆるめることができなかつたという。

為平さんの苦労を見た白鷺町、飲食業、江尻俊章さん（四六）や船津町、社員、中

村勝幸さん（五六）が自分の八ミリを持って協力を買って出た。これを聞いた坂田町、市立姫路高校教諭、西川卓男さん（四〇）は音響と解説を引受けた。

「これ以上古墳を破壊させるな」を合言葉に半年がかりでやっと今月中旬完成、これから一般市民にこの映画を公開して文化財保護を訴えるという。

姫路市内の古墳は確認されたものだけで約四百あるが、四十年ごろから宅地ブームが起こり、六カ所で古墳が完全に破壊された。現在破壊が進んでいるのは四郷町坂元の宮山古墳、豊富町曾坂の横山古墳と、この八代山古墳の三つ。

県、姫路市の教育委員会は古墳が破壊される前に発掘調査をし、記録と出土品を保存するのが精いっぱい、古墳保存対策は全く立てられていない。

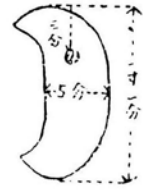
その他の古墳 前ページまでにあげられなかったの遺物 かった出土品を、次にまとめておきましょう。



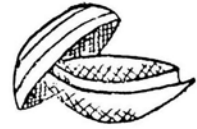
タテ、ヨコに上層を残して盛り上のようすを見る。



楯を置いた跡。まわりを粘土で仕上げた跡が見える。



勾玉 淡緑色ロウ石製  
(東光寺山で)



坏わ



高坏たかつか



瓶びん

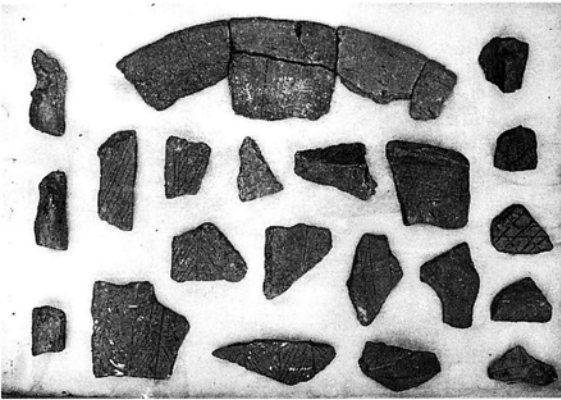
提瓶ていびん  
(以上 芝崎山で)



二、広嶺中学校郷土研究クラブ採集 (芝崎山で)

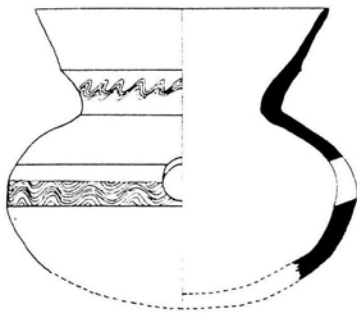
円筒ハニワ列

ハニワの径一八cm ハニワの間隔八〇cm



形象ハニワ片

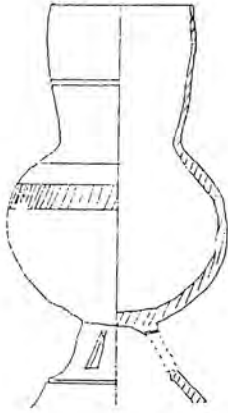
破片が小さいので元の形が分かりにくい。  
左は人物ハニワの手脚 中上はキヌガサ  
中下は盾 (たて) 右はカブトか



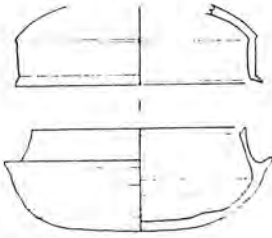
はそう 復元高さ9.5cm  
よく焼きしまっている



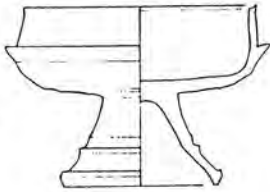
台付長頸壺



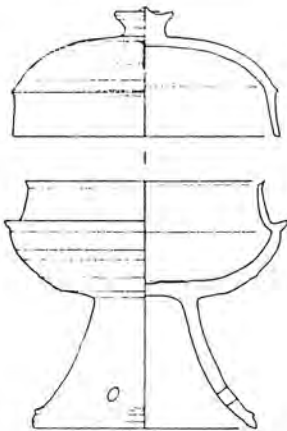
坏



高坏



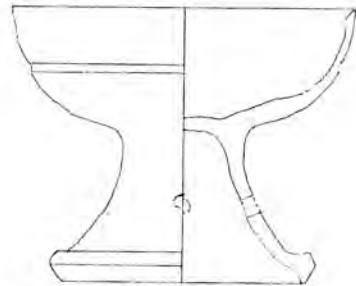
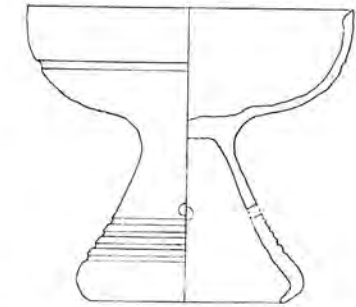
高坏



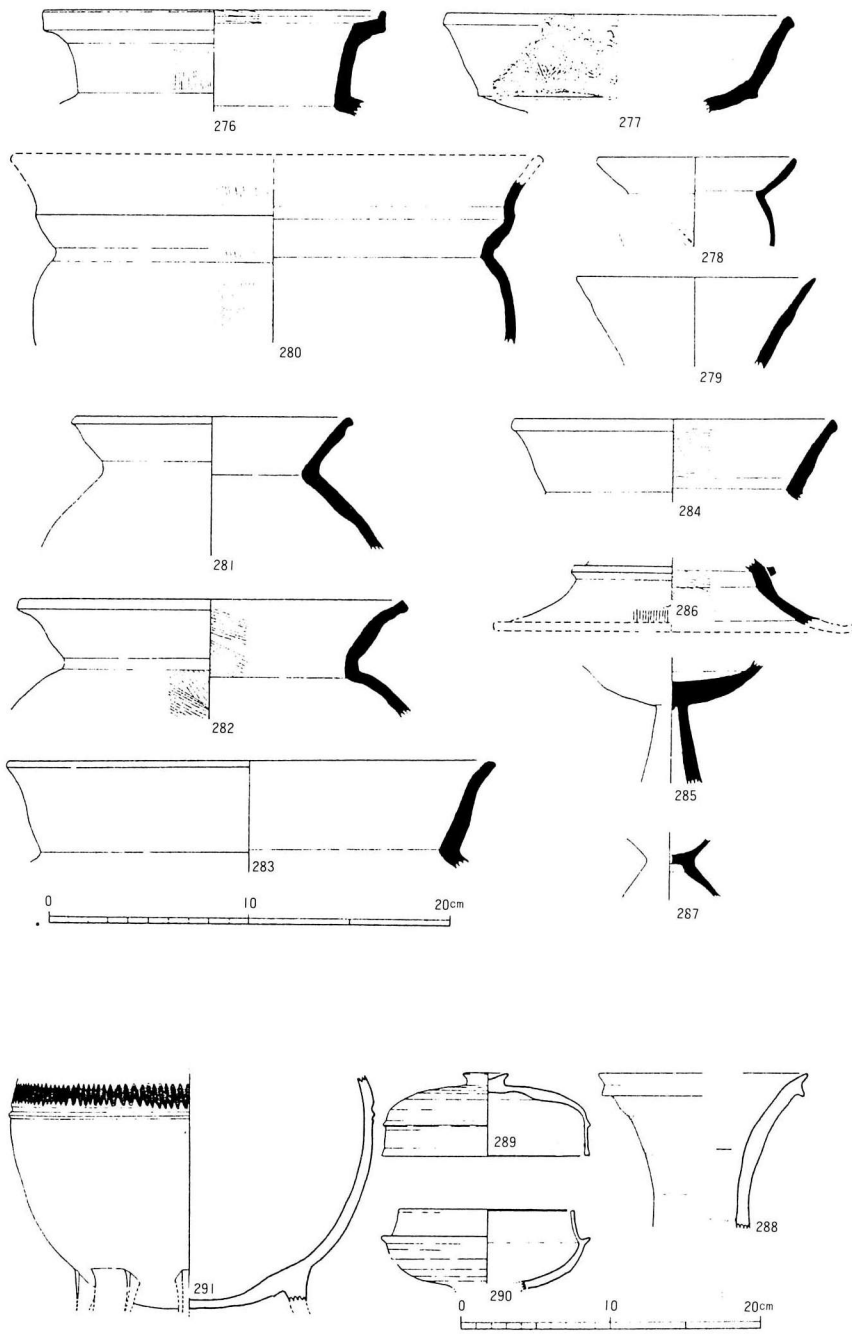
三、加藤史郎君の採集（芝崎山で）『姫路古代誌』三、ほか

▶大型壺 二つ

小さく割れていたのを、広嶺中学校で復元。  
下の壺は口の部分が見つからなかった。



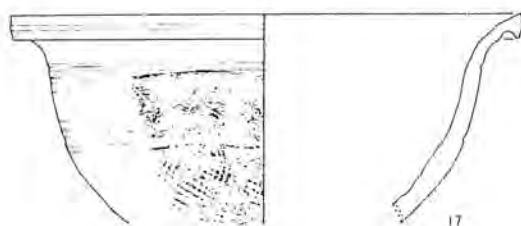
ミノ峠で広嶺中学生（尾上正名君ほか）が見つけた須恵の高坏



土師器 (276~287) 黄色のやわらかい焼の土器

須恵器 (288~291) 瓦のような焼の土器

共に古墳時代のうちでも古いもの



五、松岡秀夫有年考古館長の採集（八代山で）

器台の上部である。かすかな波形をえがき  
下方に格子目がある。六世紀なまころのも  
のだろうか。『有年考古館藏品図録』

## 八代での考古資料発見年表

年 月 日	考古資料	ところ	発見者	文献
明治	古冢1	八代村	滑川友市	撰播古墳所在表
大正～昭和初	磨製石斧	御茶屋389の道で	小西孝四郎	播磨国石器時代地名表
〃	ハニワ片	芝崎山	小西孝四郎	播磨郷土文化7
昭3.2.28	縄文・布目瓦	東光寺山	島田 清	断金29
3.3～5	ロウ石製勾玉など	芝崎山	島田 清	断金29
20年代	弥生片・須恵片	宮跡132・133・135	飯塚重三	八代のしらべ
24	須恵壺・高坏	ミノ峠付近	尾上正名	広嶺中郷土研究部報告
26.2.11	鏡・剣など	芝崎山一号墳	岡村一輝	播磨郷土文化7
26.2	剣・タガネ	芝崎山二号墳	(盗掘)	姫路古代誌
26.3	ハニワ片など	芝崎山	広嶺中学	姫路古代誌2
26.6.8	打製石斧	行者堂付近	下村唯雄	播磨郷土文化7
26.12	箱式棺	東光寺山山頂付近	増田重信	姫路古代誌7
30ごろ	尖頭器	八代山	斉藤信夫	姫路古代誌6
〃	弥生土器片	姫高生物教室前	松岡秀樹	八代深田遺跡
32.8	弥生土器片	城乾幼の東の道	松本正信	八代深田遺跡
33.2	弥生・石鏃など	木村病院建設場	中浜哲郎	姫路古代誌2
33ごろ	甕・高鏃など	八代山中腹	加藤史郎	姫路古代誌2
34.3.4	石鏃	大蔵神社の東	加藤史郎	姫路古代誌4
34.5.24	石鏃	東光寺山山頂	加藤史郎	姫路古代誌5
34ごろ	石鏃	行者堂北西	加藤史郎	姫路古代誌3
〃	石鏃2本	芝崎山南麓	松本正信	姫路古代誌6
〃	弥生土器片	富士才・船場川ぞい	井上 誠	本誌 P38
〃	弥生・須恵片	西高地下1m	加藤史郎	姫路古代誌4
35.5.1	石鏃	芝崎山南斜面	加藤史郎	姫路古代誌6
36.8	弥生土器	姫高体育館予定地	松本正信	八代深田遺跡
40.3.24	弥生土器	富士才733-9	村田托美	富士才弥生式土器 包蔵地調査報告
46.2	古墳群の発掘	カヤガ谷山	県教委	
50.9～10	弥生・須恵など	城乾中校舎予定地	市教委	八代深田遺跡
52.5	弥生土器片	南八代町北部	市教委	八代深田遺跡
56.3～7	壺棺・甕棺など	城乾幼・小予定地	市教委	神戸新聞56.5.12
年月不詳	器台	八代山	松岡秀夫	有年考古館蔵品目録

※この年表にはおもなものだけをあげた